

世界に誇れる極上の会津米づくり「目指そう 今年も特A 会津コシ1等米100%」

## 両沼地方稲作情報 第2号

令和2年4月13日

発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)

” 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店

(有)山一米穀店、会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区

**⚠** 30℃以上の高温に遭遇するともみ枯細菌病や苗立枯病が発生しやすくなります。

温度に注意し、天気の良い日は早朝からの換気に努めましょう。  
(連休期間は特に要注意！)

### 1 気象情報(仙台管区気象台発表「東北地方1か月予報」令和2年4月9日発表より抜粋)

<4月11日から5月10日までの天候見通し>

向こう1か月の気温は、平年並か低いでしょう。

期間の前半は寒気の影響を受けやすく、気温は低い見込みです。期間の後半は平年並か高いでしょう。向こう1か月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込みです。

### 2 育苗管理

#### (1)温度管理

- ・無加温出芽では、ハウス内温度ができるだけ30℃以上にならないよう管理します。
- ・緑化期(出芽～概ね1葉期)は15℃～25℃が適温です。(保温重点)
- ・硬化期(概ね1.5葉期以降)では10℃～25℃が適温です。
- ・ハウス内温度は軽く30℃を超えますので、緑化期以降は特に日中の高温に注意してください。30℃以上の高温に遭遇すると、苗立枯病等が出やすくなります。
- ・低温が予想される場合(霜注意報発令)は、夕方早めにハウスを閉めて保温に努めます。

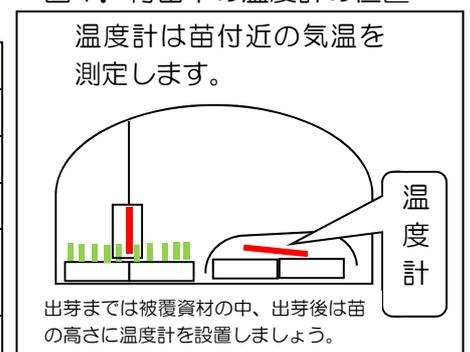
#### (2)水管理

- ・播種時の水分が十分であれば通常出芽～緑化期まではかん水不要です。乾き過ぎの場合のみ必要最小限のかん水を行います。
- ・硬化期以降は、原則早朝1回たっぷりかん水します。育苗後半は水分要求量も増加しますが、なるべく夕方のかん水は行わないようにします。

(参考)苗の生長と低温または高温障害

時期	温度	障害程度
2葉伸長期	5℃	5時間で伸びが止まる
2葉展開期	5℃	5時間で葉がしおれる
本葉期	30℃	呼吸、消耗が盛ん、異常徒長
	43℃	20～30分で苗の生長点が枯死、葉は枯死しない
	49℃	1分で枯死

図1. 育苗中の温度計の位置



### (3) 苗立枯病対策

- ・極端な高温(30℃以上)や低温(5℃以下)に遭遇すると、病害にかかりやすくなるので、まずは温度管理を徹底します。
- ・苗立枯病(下表)が発生したら、殺菌剤※のかん注または罹病苗の隔離・廃棄を行い、移植時期が近い場合は早めの移植を検討します。

(参考) 苗立枯病の主な原因と特徴

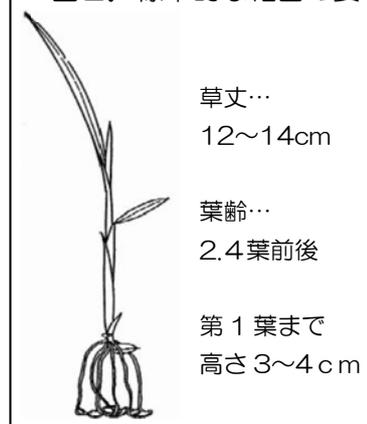
原因	病害の特徴	
リゾープス属菌	出芽時に箱表面が白い綿毛状のカビで覆われ、出芽不良となる。	 <p>写真. 苗立枯病(ピシウム属菌)</p>
ピシウム属菌	地際部にカビが見えない。苗が2~3葉期頃の発生ではムレ苗症状となり急に枯死する。苗が円形またはドーナツ状に枯れる。	
トリコデルマ属菌	初期では箱表面やもみに白色のカビがみられ、緑化期以降は青緑色のカビの塊ができる。	
フザリウム属菌	地際部、特にもみ中心に白~淡紅色のカビが密集する。葉鞘、根が褐変する。	
もみ枯細菌病	芽は褐色になり、腐敗・枯死する。葉齢が進んだ状態で感染すると、新葉は腐敗し、引っ張ると抜けるようになる。発病がみられた箱は、すべて廃棄し移植しない。	

※ピシウム属菌とフザリウム属菌は、出芽後に散布できる薬剤があります。

### 3 移植作業

- ・箱当たりの播種量が多いほど育苗日数が短く、稚苗(乾粃 180g/箱)では2.5葉期、中苗(乾粃 100g/箱)では3.5葉期を過ぎるほどに老化苗となります。
  - ・田植えが遅れて老化苗になりそうな時は、窒素の追肥(液肥等)を行います。
- ・田植えは風が弱く天気の良い日に行います。植付深3cm、植付本数は一株3~4本とします。
  - ・深植は初期生育不良になり、本数過多では茎が細くなり倒伏要因となります。
  - ・田植え後は、しおれを防ぐため、やや深水に管理します。活着後は浅水に管理し、地温・水温を上昇させ、生育を促進させましょう。

図2. 標準的な稚苗の姿



(参考) 播種量と育苗日数の目安

苗種	播種量 (乾もみ)	播種量 (催芽もみ)	葉齢	育苗日数
稚苗	150~180 g	180~220 g	2.2~2.5 葉	20~25 日
中苗	100~120 g	125~150 g	3.2~3.5 葉	30~35 日

### 4 初期除草

初期剤を使用する場合は、農薬ラベル等で使用時期を確認してください。田植同時散布剤を使用する場合は、田植後速やかに入水してください。

また、田植え後、残草を見ながら必要に応じて初中期一発剤(中期剤)を早めに散布してください。

農作業安全運動実施中!

3/1~5/31  
安全な農作業を  
心掛けよう!

